

倉掛新聞

〈発行所〉
倉掛自治連合会
井原市井原町倉掛
会長／谷和政
〈編集〉
倉掛自治連合会
倉掛少年団育成会
消防井原分団第3

先輩に敬意

華やかに敬老祝賀会



お年寄りの永年にわたる社会貢献をねぎらう倉掛地区敬老祝賀会がつどえらるで9月2日、主催の自治連合会や民生児童委員、サロンあすはの役員ら約60人が出席して開かれた。

開会にあたって倉掛自治連合会の谷和政会長が「倉掛には現在75歳以上の方が165人おられます。きょうはそのうち34人にお越しいただきました。皆様方には地域の先輩として、人生の先輩として今後もご指導を賜りたい」と挨拶。続いて来賓の妹尾文彦市議が「皆様の元気なお姿に接し嬉しく思います。また、細羽正敏民生児童委員は「この敬老会は昭和22年に兵庫県多可町で始まり、その後、昭和38年に老人の日、昭和41年に敬老の日と

新市長に大舌氏

任期満了に伴う井原市長選挙は9月2日投票の結末、新人の大舌勲氏(59)が4選を目指す瀧本豊文氏(62)を破り初当選を果たした。投票率は58.08%だった。

「官民協働による元気な井原を目指す」と、自らの政治信条を訴えた。争点の一つでもあった企業

市政が求められている」として立候補を決意。支援母体や組織を持たない草の根選挙運動を展開しながら、業誘致について大舌氏は「全国を回って誘致活動を展開したい」と抱負を語っている。

大舌氏は井原市野上町出身で今春、井原市役所を退職し「新たな時代へ向けた

「官民協働による元気な井原を目指す」と、自らの政治信条を訴えた。争点の一つでもあった企

業誘致について大舌氏は「全国を回って誘致活動を展開したい」と抱負を語っている。

官民協力必要

防災関連要望書 市からの回答届く



定められました。皆様の多大な功績を称えますとともに、ご健康をお祈りしします」と長寿を祝った。

森梅子さんへの米寿記念品贈呈に続いて演芸に移り、倉敷市在住のカラオケ指導者田辺省三氏・和子氏

夫妻が「北国の春」「瀬戸の花嫁」「四季の歌」など14曲を歌い、会場を盛り上げた。

またもや冠水 市へ検証を要望 台風24号

ラッキープレゼントの終盤、岡山県議会上田勝義議員が会場を訪れ「今年の夏は大変暑く大きな災害も

起きました。自分の命は自分で守る意識が大切です。これからも元気で過ごしてください」と祝辞を述べた。最後に自治連合会の片岡秀憲副会長が閉会挨拶を行い、記念写真撮影後に解散した。

10月13日に防災訓練

広く参加呼び掛け

倉掛自治連合会が市へ提出していた防災関連要望書の回答が9月19日、谷和政

会長の元へ届いた。7月豪雨以後、防災アンケートを実施して住民の声をまとめた自治連合会は8月17日、災害への対応を協議するための臨時総会を開

催。小田川と周辺環境整備も大きな自然災害がいつ起

きるか分からない。皆で力を合わせる意識が欠かせない」といった声が多く聞かれるようになり、自治連合会も地域防災体制の重要性を訴えている。

12078票
7972票
瀧本豊文(無・現)

《倉掛ご長寿番付》

10月5日現在 敬称略

- ① 若林恵美子(99) 2組
- ② 田中真佐枝(99) 15-1組
- ③ 川田玉枝(97) 16組
- ④ 下宮清子(95) 5-1組
- ⑤ 山岡許恵(95) 17組
- ⑥ 小林八重子(95) 13-1組
- ⑦ 大久保政子(95) 8組
- ⑧ 佐能ミツエ(94) 5-2組
- ⑨ 川相良子(94) 5-2組
- ⑩ 井戸伴枝(94) 15-2組
- ⑪ 関倉橋香(94) 4組
- ⑫ 佐能正美(93) 13-2組
- ⑬ 山岡光千(93) 16組
- ⑭ 高片喜久藏(93) 13-2組
- ⑮ 高片正年(92) 14組
- ⑯ 岡田克巳(92) 18-1組
- ⑰ 遠藤生三(92) 8組
- ⑱ 片岡瀧子(91) 11組
- ⑲ 倉橋昭二(91) 7組
- ⑳ 橋本照子(91) 11組
- ㉑ 羽津知子(91) 5-2組
- ㉒ 森兼和子(91) 8組
- ㉓ 若林智澄子(90) 10組
- ㉔ 丸山澄子(90) 18-2組
- ㉕ 船橋知(90) 1組
- ㉖ 和田静子(90) 18-1組
- ㉗ 濱田晃(89) 18-1組
- ㉘ 船橋小夜(89) 1組
- ㉙ 渡邊静恵(89) 5-1組

今回はずどえらるへ義務付けられている消防訓練・避難訓練の実施日に合わせて行われ、防災士のアドバイスをはじめ、AED及び水消火器の使い方、避難袋で2階から滑り降りる脱出体験もできる。保存食や衣類、ライトやラジオなど、防災関連グッズの展示も予定しており、多くの参加を呼び掛けている。

郷社境内に歓声

三世代グラウンドゴルフ



サロンあすはの会員を招いての三世代交流グラウンドゴルフ大会(倉掛少年団育成会主催)が9月23日、郷社足次山神社境内で開か

れた。山成秀峰育成会長の開会挨拶に続いて、参加した45人は8ホールへ分散し、午前9時に同時スタート。神

| 《グラウンドゴルフ成績表》 | | | | | |
|---------------|-------|-----|----|----|----|
| | 氏名 | 所属 | 1R | 2R | 計 |
| ① | 大坪寛和 | 少年団 | 23 | 23 | 46 |
| ② | 丸山葉和 | 〃 | 30 | 27 | 57 |
| ③ | 江草信之 | 〃 | 31 | 28 | 59 |
| ③ | 新谷未遥 | 〃 | 30 | 29 | 59 |
| ⑤ | 山成晃司郎 | 〃 | 30 | 30 | 60 |
| | | | | | |
| ① | 大坪正和 | 育成会 | 25 | 21 | 46 |
| ① | 江草祐子 | 〃 | 22 | 24 | 46 |
| ③ | 丸山 剛 | 〃 | 24 | 25 | 49 |
| ④ | 岡崎勝男 | 〃 | 30 | 21 | 51 |
| ④ | 村上達也 | 〃 | 26 | 25 | 51 |
| | | | | | |
| ① | 西村敏明 | サロン | 21 | 19 | 40 |
| ② | 寺内知久子 | 〃 | 22 | 25 | 47 |
| ② | 山岡節子 | 〃 | 24 | 23 | 47 |
| ④ | 浜田精三 | 〃 | 25 | 23 | 48 |
| ⑤ | 田原耕太郎 | 〃 | 24 | 25 | 49 |
| | | | | | |
| ホールインワン | 谷愛里子 | 少年団 | 1回 | | |
| | 西山麗乃亜 | 〃 | 1回 | | |
| | 大坪正和 | 育成会 | 1回 | | |
| | 西村敏明 | サロン | 1回 | | |
| | 井上純志 | 〃 | 1回 | | |
| | 浜田精三 | 〃 | 1回 | | |



慣れない手つきの調理だが味は上々

親子で カレー調理

育成会の江草祐子さん



苑特有の障害物を避け、ホールポストを目掛けてショットを打ち、時折歓声を上げた。

結果、倉掛12-2組西村敏明さんが最少打数40で総合優勝。部門別上位成績者やホールインワン賞、特別賞の表彰も行われ、午前11時30分ごろ閉会した。

テントで5人一泊

グラウンドゴルフ大会に続いて午後3時から、7月の豪雨災害の影響で流れたサマーキャンプの代替行事として、郷社でデイキャン



14組江草守さんによって設置された臨時炊事場

プを実施。育成会OBを招待して親子でカレー調理を楽しんだ。希望した男子団員5人はその夜、境内へテントを張り1泊した。

ボランティア入門講座



ボランティア入門講座です。基礎的知識と最新の活動内容などについて説明します。「これからボランティアを始めたい」という方、ぜひご参加ください。つどえ〜るはボランティアの最初の一步を応援します。

とき：10月20日(土)13:30~
場所：つどえ〜る(62-9090)
受講料：無料
申込：10月14日までにつどえ〜るへ申込む。(電話可)

行事予定

- 10/13 倉掛地区総合防災訓練 ※別記参照(つどえ〜る)
- 10/14 少年団堤&公園清掃奉仕作業
- 10/20 ボランティア入門講座 ※別記参照(つどえ〜る)
- 10/21 櫛の杜の市(門田町大谷)
- 10/26 倉掛自治連合会 役員会&防犯パトロール
- 10/28 井原町秋季大祭
- 11/ 4 井原分団第3部試運転日
- 11/ 4 井原町グラウンドゴルフ大会(井原小学校)
- 11/9~10 倉掛少年団夜警活動
- 11/ 9 倉掛自治連合会 役員会&防犯パトロール
- 11/18 倉掛少年団資源回収
- 12/ 2 サロンあすはクリスマス会
- 12/ 9 倉掛少年団クリスマス会

※倉掛パソコンクラブ
土曜日13:30~ 日曜日9:30~
※つどえ〜るカフェ(祝日休み)
金曜日&日曜日10:00~15:00



父に想うこと



父は80歳が過ぎるまで満州のことは、一切話さなかったが、80歳をすぎた時、何かに突き動かされるように当時のことを執筆したり、学校等いろんなところへ行き講演をしたりと堰を切ったように戦争の怖さと反戦の大切さを訴えていた。その都度、子供たちに伝わったかな?もともと柔らかな言葉はよかったです。落ち込む父を見て、父の人間性の面白さを感じた。

いきいき
いきいき
いきいき

また、父のライフワークは、自分たちの住んでいる佐原を高梁市から井原市に行政編入することでした。現在も行政上は高梁市ですが、実際の生活圏は、高梁市ではなく井原市である。例えば、川上町の佐原地区だけは小学校は川上町立の学校へ行くのですが、中学校は井原市(当時)は後月都へ行くのが通例でした。高校はそのまま井原へ行くものでしたし、働く場所もおおむね井

倉掛自治連合会
総務部長 神崎 節夫

原方面だと記憶している。父は、地域の方々と根気強く、このことで話し合い多くの方の賛同を得ました。幸い町議会議員になったので、川上町や高梁市・県関係として井原市と議論を重ね調整で始めた矢先、残念ながら頓挫せざるを得ない状況が生じ、この時はお蔵入りとなってしまう。それでも父は諦めず、少しでも糸口があればと自分なりの活動を続けてきたが、脳腫瘍という病魔に襲われ、帰らぬ人となってしまった。さぞかし無念の気持ちであったと思う。
今、多くの人が、しかたなく居る佐原地区から町外へ移っているが、佐原地区は超限界地域である。お年寄りも車の免許証を返納している人が増えている高齢者の集落。食糧や生活必需品はお店もなく町外にわざわざ行かないといけない。井原から来れば30分程度で来れるのに、高梁だと1時間かかる。この30分は仕方ないのだから。それは当たり前として受け止めておくべきなのだろうか。父の仏前で手を合わせている母をみるたびに、こんな願いがこみあがってくる。